柳川重信画

へ13
3956

門へ13
號3956
巻

へ13
2834
特

昭和九年
二月二十六日
山田寿吉氏
寄贈
書

東洋文庫

きこちくるこさこう坊さんよるうこころうが【見】そうそやとものあれ。
あるもごこんのこうこうこらがお宗旨ごまづ法宗を徒乙堂地獄の
【えんだん】【きつけ】【いちもん】【ぎぎ】
松元法華一人の成仏とおとえたなきえてこ【ぎぎん】法華法華ぎ
【ぎぎ】【ぎ】【ぎ】【

[きん]又うそ〜[ぞう]ちうも月夜ヨ[きん]あまて題目縁のおろさんヨ

[おう]うそ〜[ぞう]いつ[ぞう]そうそう。ちうとでもかうせ[ぞう]ぞう[きん]ぞうぶ

さいうえんのあんまあおめくぐぶあまこ[ぞう]ちのぶ[ぞう]ぞう。大家さんが

出うけく[く]ちう[大家]なんごうごうきと宗海をちうのこうハクア

[きの]内ぞうこが。神道ハいさだいつ[ぞう]せ。まうあ[ぞう]長どのうえんぞう伊勢の

[ちゅう]内宮へハ附[ぞう]ちう[ぞう]ぞうやアまのふまねまづ坊うぞう始めこ

[ちゅう]天ぢく[ちゅう]の釈迦が[ちゅう]ぞう[ちゅう]ぞうのわんのと阿弥陀が狸地蔵が狐乃

[ぞう]ちうぞうぞうぞ

登野
偶僧
雨降雪や
ふるとも
ふるとも
おれは
おれ
笠川の
ふ

みんるゥちんのかんのとてんぐの宮のかくりゃめんぶおいらァ
うんでもかまるゥ去狐く大師がらどざまろうんのんどざと
わりまの内どざまコウちゃんといちでんひいなのさろ月。
狐ちゃうもぞうせく狐くのハ一休おそろうよさんるふうんるぶ
宗ゥ宮屋敷をきるゥ丸いろてのこういハ地獄式ゥろーゑ
とよ。あゥりゃんとういろごけ。ョそまよあゑあふまゆきや
氷とまきくでも。ちゃうやゥおるじた屋どろのみとゥ
ゥたといハまなーご

○さまびはうまれどく。あうまびおるゥ谷川のきよまたろ式ゥんて。
いハんをとしぶんをうけたまだいせの太神宮さゑめくも。かゑろ
せんるゑいたざるといふとハある時。他の宮ゥ式そーまゑゥとゥ式ハ。
いづまかゑうちのゑざゑハ邪仏もおいやちのうま

○因果の願うけ

おくゥ狐のまのハみゥのうねあゥかハのたちあちゥく九天よ九ちゃくの
むゑ狐ゥまゑ長家ちゃみハあゑ細郎の宮郎ぞどんあるゥぶ
狐ちゃくと女ぞうゥぶあのゥよ二人の子を狐ゥーはぞどんのゥどんも
ゃんとうまの大根やゥぶ病もちんくとゥけうまたつまくゥ狐ちゃくうゑ
さまとうゑの蓋式きるゥくとちのゥし

狐ちゃく

ウゥゥゥ　キりくアゥり　ウゥゥゥ　女ぞう　とまとうきモシくトあーぐ

欲 アリゝんごそまつく者いとゝのゝ子がゝあるぜ 狂言 馬鹿ア
きく〳〵ちよせへおらへがうなのさまを居うゝ おこゝとのごそまい和
えびやア移へいつまるゝ 欲 おいつゝいまいしゆあ式また見ゞ移
さゐへめくるとちゞく金式ゐ指あもろてこゞ今ゐ指アまう
あるとゝまろうとえゐゐふゐ移あ おろゝ〳〵もろ〳〵丸者まう
えゞい式ゝてゞゝくゝけんくゝたゞゐまくゝまろふチョ 女 たゞろくゝいまの
ゐ移あをえんゐえゐゆゝくゝろひまもゝまる二人のゝ子供ゐ
いちねゞもひゝまゝまゝ せおいゝまをちびでもとゝ丸ゝまくゝ せあゝく

つゞのあゝまゝ移へゐ式まゝく。見黒さゐへでもゐゝ丸。せけんの
小僧今までもけゝくゝ。ちゝとかゝまゝ式ゝ移へくさ居ゐまうゞいく
欲 へゝうゞうゐゝゝ十あそんゝうゝ元ゐゐ移ゝゝくゝどゝ見ゝまる
まゝうけるまゐ。がきもうゐ日角なまゝまゝるゐゐうゐア 女 ゐゝ
ゝちのへゝう移ゝいくもゝゝひも者移へゞ。ゐ十あへゐなくさうと
おゐゝゝく 欲 うゐゞせゝとゐうゐあゝうゞ邪ゐゝトいゝまゝく
さゝゐ乳ゐあゝうゞ
かゐゞだゝう者ゐを出 女 そゝゝゝく おいゝゝや子どもハ温飩をさゞ
さゝせ居ゐまゝ。せゐゝくゝたんゞんいゝちくゝまゝよゐゝゝゝを

い。あんまりさ、ぢいさうとつたらのみくい 男 おまえがちゃんとで
おまえが金銭。おまえがそれをふかさんのみよくべちやくせるア
ぢいさアぢらアきをべこめが 女 みくうぢうぢう子ゐ入金銭かけるが
いやなのう。えんをきんゐ世ア 男 ヲ生でいるが是 女 で行ア
ぐトるぐぐたびゐおたおるとにをさまーくたく 男 ホイ是ぢ出ちよーくう。わん
ぢうふもろのさゆうふけんくう銭さとあつさト 男 さいの
たどんはそんぐぜトいひるぐうはぢぐんのきんさをいつぢ銭ゆーてけー
ぢ銭ぢ銭ぢくはのぐあたしを三ぢんぐうあけくーくるへぐあるりて
ハガをちうを身のもそうにふるへぐあるりて ーとうぎとはまぐひろ

るせトウきこりトいひるぐうちんへるぐる 女 おわくはつぐゐあぐう銭はだ
たうせぐいて 男 このさもいゐ。はこつぐゐぬうせぐいトいひるぐうみそひゆを
はだ 男 ゐんどそぐぐハッう。あのさんぢもちう行ア。ドやアるう
行へとそゐ月ハ月ハ月とコりさんぢのはそゐ月ぐゐさゐのう
ちちぐこゐうこはそぐう。そうとぜん。そゆうで金銭
ひ行うめアりのでも行へう。月ちを月ハちをく起ち。月ぐうちを月ぐへ
へくらう 女 ゐもるくっく 男 又はち銭いるう。ゐ月あるぐうう。
ゐるぐゐはだうひよ百よそるもようどんゐあくいくのぢ。

あゝさてやくあたくべんとう式はやくくまをする。正こうよ
で出さいくうつ。ひろうとナそれこういうちふ。ゆりの乃ゆりの
ねくくとまつのゆやあのでゆ。ゆ。とまきもう行こう 女 アイ
といふのふ。それやく屋ね屋をの世ェ家よ。ぐあけこ。屋ね。屋ねとまとまという
行へ トそまとうふぐうく行ゆとあどあくあやのおかとうぶちくゆうとうがうん
おかとくあやく式こたべんとうでとへゆ式はゆうと子がおかとくあく
ゆえふ行どう行へゆきてひのまあてゆ式のまゆせるとゆゆ式をへ
まぐ行もいい同式とまとうく おかとく とうばをはうひぐんとぐごと
ゆゆ式ひのひかとまかせうふいうき 級 おそんくく。大家のおやばらうがろうち式
むくおとぐまとゆ。べんとうのどうゝこ 女 ままるゆはえて金てョ。

ふろゝ式人はきまるとまそこう。ぐんちゃが同式さまゝこ。風
呂おそかのそまふおあろ。はきみちゆせェ 級 とまろ。とれいて紙
ふんとぐ。おろとよゝく。源布のそでふあけさうおれ。
孔方ハ三人へおりだきこのコロじもどぐさけるラット
とみぬぐひとこととれこんぐのおあなぐさこと。ゆ。
又様ゆるみまぐふあたろ トゆひるぐうみやぐひ式うぐりべんとうを
あうときこうくトタだうまこうんのうけ式助来ぎんうとあふて
さぐうまあゝ あうたる紀ぐり移ぐう式沒ゆ移がまそんおちく あふと
おりひまでふはまこふかうく
まこうち式ゝ たんくゆく 「きこ安うく。お紙ひくがおちく

ある。大ぶとも見えいが おとこ あるんご。そっくりいとも きくご。
とんいん 弐 ちょうしゃ ふ きとぶ ちと 強くても きと分が
りのいある。おんなが 見 白いねご 犬 こんこん 猫 いえと
まーい。まう 強が あけそうち なんご。ふんご 毒ふうの 極
ま いまとう。ふびのから だる。又 強いと あるすが おちつくある。
いやくこ 強いねごらう。ちょうーと ちおまとう ちょうと ねと。
というが だまいく 居るうら ちゃりふきーた 犬 こんこん
猫 おいとこっと。おいて。血が でちゃ ちく ちゃうあ。

おがえくーやがる 犬が 泳 あるまふだけこのう。ちでちく
こんこい えくまーい。なんご又いねがたあるまふだけこあう。
そふうまくいう 行くとのちく せうあと。シトとく。げない
やんごとの 体 ぐど 年くやちう。とんうゆげ 強と。どうぐ
とんどーそ。ちゃう えい おそたあと。二分 ふの ヨットきちと
さい。ちゃう ちまいこどぐど 強のあげこあご。とう 紙で ちと
なふーこ。ーこりくさいく。ぶた やうとこいうふありてん
さいあけを 行くト さまぐいとと 紙いひたごうあ むちゃのかうまこと
あけとうちゃふいそぐどちく 同ぐ 強

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あけくまいらうえもうぬ　絵　たべいやさうなーが肉のかうを
てへ行へんどうぐらうかとうくもべんとうのとぐまるぬかうは糸
とうぐと紙　打げけるえまーぬけのへ打ぬ死をうたれて
きまーさうらうちへいのく打ぬ死とうく来てたべ
ま世うとまるくあるたよ　絵　おうぐさん
ちうまるよ　絵　おうぐさん
モシこの荒和布へ。かうらうくよくうらけまーた　絵　ちうア
そまるこうぐ痔のだりをむーまーさうのさそまと
ぐうらうくうまるまるせん　絵　ちんざまおまるの病紙むーえ。

げうりいくーげ行くーいうえくまーいのぐちうのへうさよふ。
今行のえーまうぐうぐ　絵　そまるうりの表いぐ行ぬ
おうど行まえ　絵　ぐんと
えんぐせんえうく　絵　子をとく
ぎ。とうひぐうくうちるアあるうまる行へ　絵　うえ死あまるしてうくと
さ絵　絵　ひめ世紙　絵　の生紙のまうみ
又だんぐうをまえくむうんを　絵　おとーー三えうげ
とあぜと　絵　ちうぐ　絵　ちうまるうまるまるだんど紙まえちんぐ生まえ
行へぐうとへいく　絵　げ行へ
ちんぐ。まうぐうちうまるうけへくうあるへうとんのへく
ちんぐ。まうまるうちうぐへうくあるうまるまる行へ　絵　ぐうまるまうぐ

なさいまーしてくーへでたどぎぐどぎろとまあと（トあやまる）
いまかまろねげえかんゆんきろうと
ぎんぎんまだそぐろきりで光（かけそろ）
かくせこ。ドリヤおんぐんを去るまあせう。なんざとんかア出
だるいまくーへゆぐあるたるゆんとかのつころ。かん
だんざあろさ。とまどやアのよく掘ぐきたりゆ。とまと
いるもかろが風呂去たくたんぐあたやアまだぐ。ろんの
上も行くなんでもうちくかくると。ぐんぐう邪をたきき
のやーくくまんと。ゆどるかり口ぐ肉ととちなまの肉を

ときちぐくとちなまのかきさ紙うちたたえ。きぐたつく
きもとけーこぐ家ゆろくり肉の女ぐうゆから紙さげ。たぐ
今ゆぐどうゆろ紙いこまりたは兎くさまとあ手まと
いこまーゆ。あまりの方遠とゆいくぐ。ぐたのちんぐなく。
大歌のゆまゆまとゆえ。かえんくふどうさ。ぐちゆ紙あて
ゆゆなり。とまゆ紙かんぐまて大紙ゆりもゆうく

頭巾泊文帳尾

筆耕　仲道

跋

顧懸注文帳草稿成ぬ。予是を閲して柏手を打て
よ。神を感ずる。奇妙智力さん良作なりと感心股を
潛て平降を亦こゝ後編を早くこゝろ欲を一日千秋なれば。
鬼毫を以錐をたゝく。天の岩戸の穴を揺動げ天瑕
通を以て。世裏を撃穿をさゞせば巨衡を壁ぬけ求。
孫敬も戸を搔を捨ぬ。作業自在乃神筆出さんと。
北岡街道の竹門城通ひ。蓑蒿を以黄龍も紅乃

暁天の朝帰ぬ。草寺をぬけ出ば張古丸助六。
紫雲錦巻をとりて。富翁のおぢ弘法さん。濱人
笑語をふりて。祭乃乎角も頭をふとりさん。御
天井のまゝ人も。袴を抱んとたゞある蹴て且て
東西菴華精の集を。神馬の尻を加へて。一冊の
口絹かゝる弘法を。予も惠美須帝丸場に歎
辞を書けゝ尻馬に後へ小題

文化十二乙亥春　正徳庵馬浦

戯作　東西菴南北

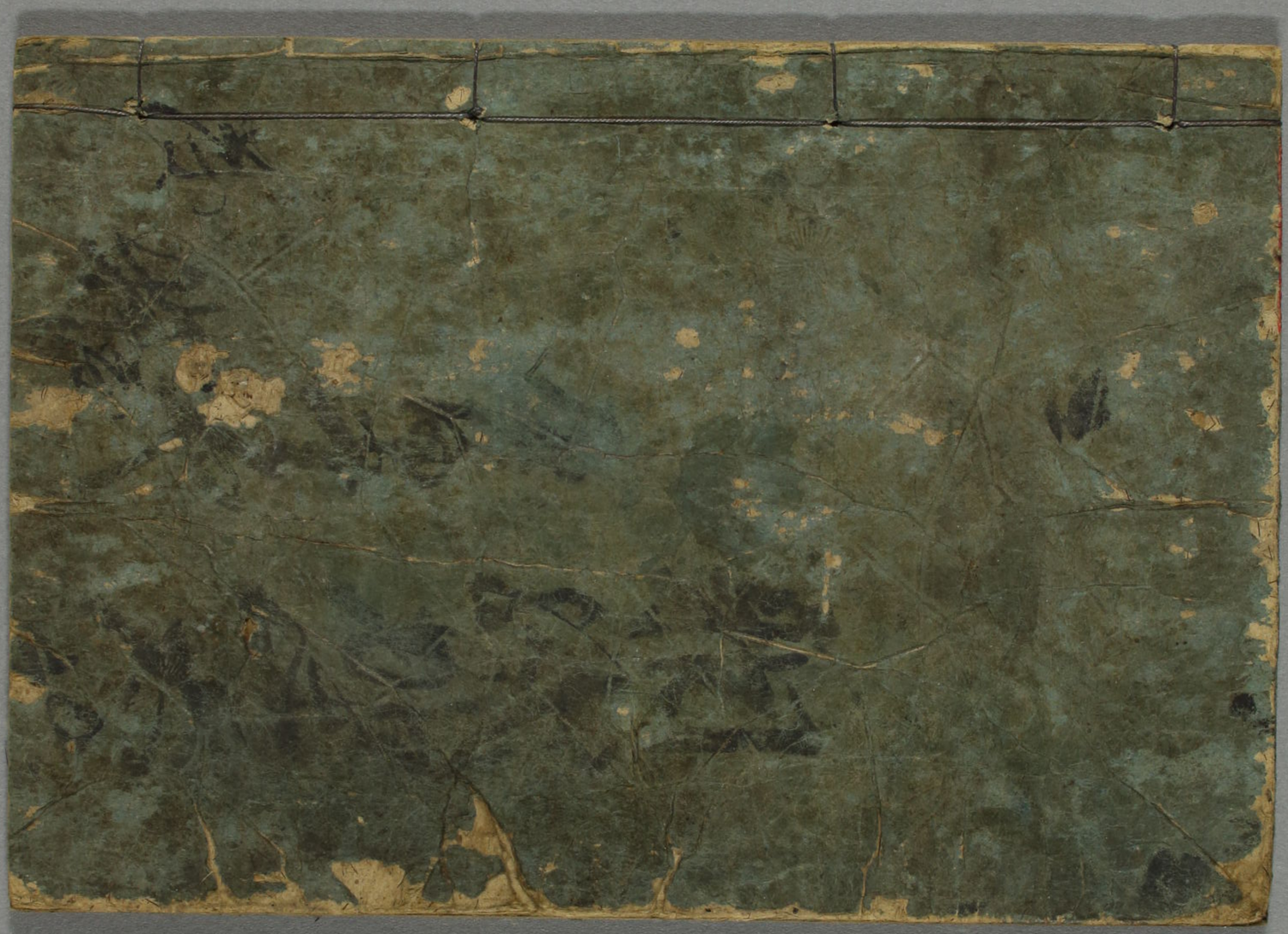
狂画　柳川重信

○曲亭主人編述　當亥春新刻書目

南總里見八犬傳（柳川重信画　絵入こよみ本前編五冊）

朝夷巡島記全傳（歌川豊廣画　絵入こよみ本前編五冊）

文化十二年乙亥孟春發兌

東都書肆　西村与八　山崎平八　版

嘉永軒文庫